

【委員会における議論のポイント】

今回の格付け結果は、高評価のBが5名、低評価のCが4名となった。

いずれの委員も、調査スコープとされた範囲については、十分な調査と事実認定がなされ、先行する第三者委員会が否定したB氏（当時JBR取締役管理部長兼バイノス取締役）の本件不正行為に関する関与を認めたことを高く評価した。

他方で、A社長が本件不正行為に関与し、または認識していたかどうかというステークホルダーの関心事が調査スコープから外れていると評価される点については、いずれの委員もマイナスに評価しており、このマイナス幅の大きさが、BとCに分かれたポイントであった。